

## 表紙解説 「猿に桃の図のある庚申塔」

此の庚申塔は、佐伯市三十三観音巡り第三十一番札所 大入島日向泊の普戒庵の横手にある塔で、庚申塔と言われています。

この庚申塔の上部は欠けており日月の印などは見られません。全体の形から考えると想像すると舟形（光背型）の庚申塔と考えられます。

表面の図は、二匹の猿が向かい合い、桃を渡しているように見えます。桃は長寿をあらわすと言われています。

庚申塔については、佐伯市史に「庚申塔の本尊は、江戸時代青面金剛と言われ、元々の庚申信仰は、天台宗とともに中国から伝来したもので本体は道教の守庚申しゅこうしんの思想で、三戸説さんしといわれている。またこの守庚申の思想と山王信仰（日吉神社）が結びつけられ三猿が描かれると説明されています。佐伯地方の庚申塔には「庚申塔」の文字を刻んだものが多く、ついで「青面金剛」「猿田彦命」の文字が書かれているものが多いと言います。「青面金剛」の像が刻まれているものは比較的少ない」と書かれています。

この猿の図や桃を持つ絵は非常に少ないそうです。完全でないのが残念です。少し前までは「庚申待こうしんたい」「庚申講」として各地で祭りが行われていました。

### 編集後記

会誌二一九号をお届けします。

今回は昨年講演していただいた甲斐先生のお原稿を一括して掲載しています。毛利氏の系図等の資料があり、分けて掲載するよりはとの考えからです。

また、今回新たな方からの投稿があり、大変うれしく思っています。

会員一人一人が執筆者です。

こんなものを載せてはと思わず、是非会員の考え、思いを原稿としてお送り下さい。よろしくお願ひします。

次回の原稿メ切は、九月末になります。

原稿お待ちしています。

（編集担当 吉田）